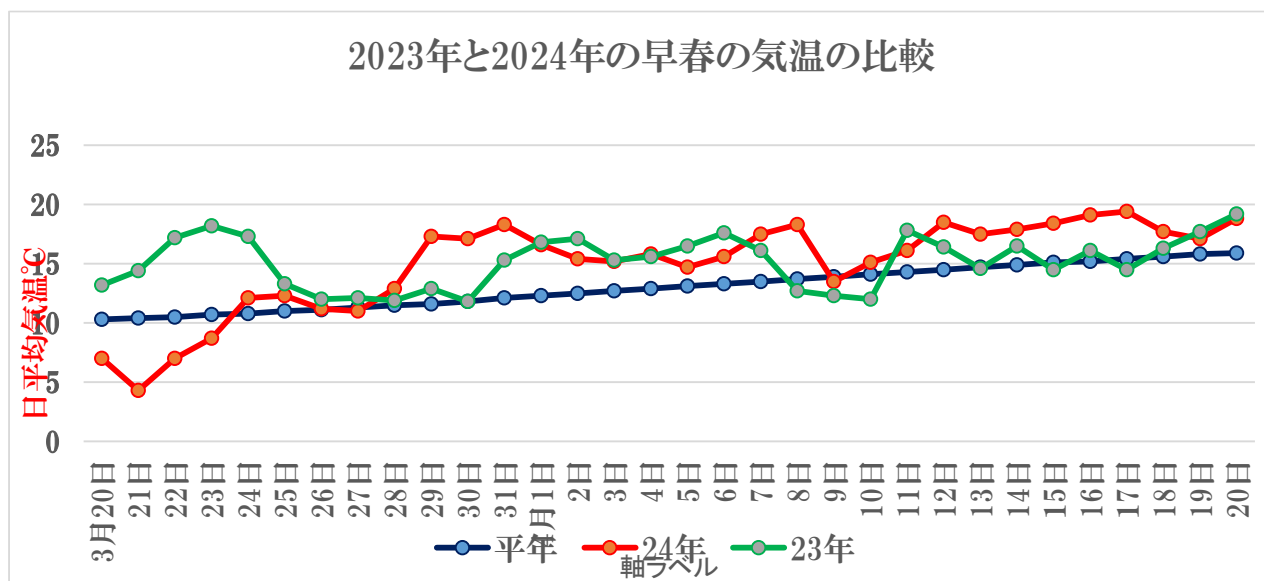


前報で触れたように、今年の「春らしさ」は3月も末期になってやっとやって来たという感じであった。例年であれば、3月末から4月初旬にかけては春の歩みが一服し、「花冷え」とか、「菜種梅雨」などと呼ばれる期間があったが最近ではこの様な言葉も聞かれなくなっている。下図は、住居近くの神戸地方気象台の昨年と今年の3月20日以降4月20日までの日平均気温を平年と比較できるようにグラフ化したものである。

昨年度は、3月下旬前半（気象学的には第5半旬と表現される）の気温が高く後半は平年並み、4月上旬は平年よりは高めの気温、中旬は平年並みという気候となった。これに対し、今年は再三書いて来ますように、3月末から急激に気温が上昇、以降4月中旬まで平年よりは高めの気温が続いて来たことがわかります。この為、開花の遅れ勝ちであった桜の開花期間も遅咲きの「サトザクラ」を除いては終わったかなと思う間もなく、コバノミツバツツジ、サツキ、ドウダンツツジ、ヒラドツツジ、ブルーベリー・・・などツツジ類、ハナモモ、ジュンベリー、ヤマブキ、ナシ、モッコウバラなどのバラ科の花々、さらにはカリン、ハナミズキ、ブラシュツリー、ノダフジまでも開花し散策の目を楽しませてくれます。

一方では、遅れ勝ちであったケヤキやトウカエデなどの並木の芽吹きも急速に進んで来ています。このような急激な開花や、芽吹き背景には今年の降水量（＝揚水）も関係しているのではないかと思います。参考の為、今年1～4月（今年の4月下旬は22日まで・・・）神戸の降水量を平年及び昨年と共に挙げておきます。



1月～4月の降水量:mm 神戸地方気象台

	1月	2月	3月上旬	3月中旬	3月下旬	3月	4月上旬	4月中旬	4月下旬	4月
平年値	38.4	55.6	29.1	29.8	35.3	94.2	36.1	33.1	31.4	100.6
2023年	54.5	27.5	0	52.5	33	50	50	28.5	83	161.5
2024年	16	93.5	20.5	27	112	159	75.5	41.5	20	137

なお、降雨が多い・・・雨の日が多いと樹木の開花や芽吹きが遅れるとの言葉もしばしば聞かれますが、これは完全な誤解。休眠打破後の”芽”や”つぼみ”の成長には光は不要。むしろ雨の日は夜間の放射冷却が

ないので気温が下がらず、この期の成長には有利となります。今年の4月は、晴天日が少なく曇天や降雨の日が多いにも関わらず、上記のように開花や芽吹きが急進して来たのはこの理由によります。

＊今年の「ソメイヨシノ」の開花一番は予報会社が挙げた「東京」でも「福岡」でもなく、四国の高知、3月23日に始まり、青森には4月14日に達しています。既に、桜前線は津軽海峡を渡り、函館、札幌では4月18日に開花が報告されています。これ等各地の開花や満開日については後日纏めてお知らせします。本報では、個人的に観測して来ている近所の「ソメイヨシノ」の状況など報告しておきます。

1. 近所の「ソメイヨシノ」の開花・満開・花期

- ・ 観察地：芦屋市翠ヶ丘町・翠ヶ丘公園（No.1, No.2）及び隣接空き地法面（No.3）
- ・ 樹勢区分

No.1 S 6 m h 主幹地上3mで分岐・太い幹2本の強剪定あり

No.2 Y 6 m h 主幹の剪定は無いが側枝の剪定あり

No.3 S 10 m h 地上1mで2分岐、剪定無し

観察標準木 No. 1 の開花・満開日

	開花日	満開日	花期
2020年	3月21日	4月1日	12日
2021年	3月16日	3月26日	11日
2022年	3月23日	3月29日	7日
2023年	3月17日	3月26日	10日
2024年	3月28日	4月7日	11日

No. 2 のサクラの開花・満開日

	開花日	満開日	花期
2020年	3月23日	4月3日	11日
2021年	3月19日	3月28日	10日
2022年	3月25日	3月30日	6日
2023年	3月19日	3月30日	12日
2024年	3月30日	4月8日	10日

No. 3 のサクラの開花・満開日

2021年	3月23日	4月2日	11日
2022年	3月25日	4月2日	9日
2023年	3月21日	3月29日	9日
2024年	3月30日	4月8日	10日

＊花が見られなくなった日

	No.1	No.2	No.3
2023年	4月17日	4月16日	4月15日
2024年	4月16日	4月18日	4月18日



＊写真は、4月12日満開終期のNo.3の樹に這い登ったカロライナジャスミンの画像です。ジャスミンと名がついていますが、モクセイ科のジャスミンの仲間ではありません。マチン科の常緑性のつる植物で、生育旺盛で育てると6m以上に伸びることのこです。原産地は南米南東部～グアテマラ 共和国等の亜熱帯地区。春から夏にかけて鮮やかな黄色の花を次々と咲かせ、大株になるとこの画像のように大迫力。香りはハゴロモジャスミンより弱い、似た香りがするとのこと。有毒植物であり、注意が必要。

＊本論からそれましたが、わが家から見られる光景なので、紹介。ただし、この様な光景が見られたのは3日ほど、18日頃にはカロライナジャスミンに次いでサクラの花も見られなくなりました。

＊今年の、観察木の開花は観察を続けてきた5年間では最も遅くなりました。これは2月以前の暖冬の影響で休眠打破が遅れ気味、さらにと3月に入っては不順な気候、気温も平年を割り込む日もあり開花が遅れたと考えられます。

＊観察対象の3本の内、例年のようにNo.1は他の観察木より2日ほど早く咲きました。この樹の画像を右に示しましたが、前述の通り根本は太く径60cmに近い樹：Sクラスですが、上方と太い側枝（幹）が切られ径30cmほどの側枝と細い枝から構成されています。このような樹は根の集水力は強く、揚水も他よりは早く休眠打破後の「芽」の成長も早い・・・よって開花も早くなるのではないかと考えています。なお、切り枝テストからは、冬芽の休眠打破は2月5、6日頃と推定。これを基に開花日までの積算温度は430℃・Dayとなり開花期の気温を考えると2、3日の遅れは誤差範囲かなと思っています。



＊満開日に関してもここ5年間では最も遅くなりましたが、開花から満開までの日数は10日ほどで例年と変わっていません。開花期の気温が例年より高めであったことを考慮すると短期日になっても良さそうに思われます。理由付けをするならば、暖冬であった為、休眠打破の期間が例年よりは長めであった？2022年は冬季温度の低かった年、開花～満開期間が短くなったのはこの気候の所為かもしれません。

＊昨年と今年を比較すると、開花から花の終わりまでの期間には顕著な差がでたことです。花の終わりに付いては正確なデータはここ2年分だけしかありません。でも過去数年の間でも5月中旬頃まで花の見られたという情報も数件頂いていますし、私自身も観測しています。

端的に言えば、昨年度は皆さまも経験されたように咲き終わりは、開花後ほぼ1ヶ月前後、今年は20日程度となっていることです。さらに、昨年は高所や長い枝先の花芽や葉芽が展開せず、結果として枯れ枝化した事例も多く見られました。今年は如何であったでしょうか？まず、今年のソメイヨシノの満開時の数か所の画像をご覧ください。





映像の説明

前頁左：4月6日夙川・9分～満開時・・・

前頁右：4月4日附近のサクラ並木・9分咲き時

左上：4月4日新三田・武庫川堤のソメイヨシノ満開

右上：4月5日観察木・No.1 8分咲き○内は昨年最も開花の遅かった枝の今年の姿。

これ等お画像では満開ないし満開近くのソメイヨシノの枝先まで、開花ないし開花寸前に達していることがお分りでしょう。通常、桜の開花は下方から上方へとと言われてきましたし、今年もこの現象は早咲きの「カワズザクラ」でも見られ、皆さまにも伝えして来た通りです。

しかし、今年はソメイヨシノ、オオシマザクラ、ヤマザクラ、後述のカスミザクラなど3月下旬以降に開花した「サクラ」類に付いて咲き始めは必ずしも下方の枝ではなく、彼方此方からポツポツと咲き始め満開時にはほぼ一斉開花となりました。また、前述のように花期も短くなりました。このような現象は今年に限りなぜ見られたのでしょうか？ 皆さまにはお分りでしょうね。

＊答は、冒頭に挙げた今年冬季から春にかけての降水量。2月以降例年になく多かったこと。これに伴う「揚水量」も多くなったでしょう。揚水が多くなったことで高所・枝先まで届いた結果、高所・枝先で「冬眠打破」されていた”芽”が成長の機会を早期に得た。これが、開花があちこちから始まり、一斉開花状の満開が見られたこと。咲き遅れの花や、未開花で残った枝（一年枝）が殆ど見られなかったことに繋がったと解釈されます。なお、今年の「サクラ」の揚水痕は1月末、2月中旬、3月にも見られました。

春咲きのソメイヨシノなどのサクラ類は冬季に「休眠打破」されていても、根からの「水分と養分」＝「揚水」が届かない限り成長が出来ない。勿論、揚水が届かなければ開花も展葉も出来ない。

これが私の得た結論です。これまでの文献などにはこのような記述は一切みあたりませんが・・・。



左の2本の花の

見られない枝は昨年開花や展葉しな

かった枝。（枯れ枝となった）

2. 参考「揚水」と「揚水痕」についての整理。

＊落葉広葉樹の冬期～初春の「揚水」は根の「根圧」のみによってなされる。

＊根圧によって、「揚水」は主として形成層内の「導管」によって上方へ送られる。

ここまではご理解頂けるでしょう。ここまでは良いのですが・・・。

＊根から「揚水」は上方の枝にのみ送られるだけではありません。

＊当然、「形成層」に隣接する「木部」や「樹皮層」の細胞にも送られます。 注1)

＊この結果木部の細胞が膨張します。(細胞内糖度が揚水より高い場合浸透圧の関係で水は細胞に移行膨張する)

＊木部細胞の膨張は端的に言えば木部が膨れることになります。

＊この木部の膨張圧が固い外皮にかかると・・・。

＊外皮が内圧を受けて、膨れると新たな亀裂や表皮の剥離が発生します。右は直径25cmほどのケヤキ街路樹に生じた表皮剥離痕。街路樹ではトウカエデやアキニレなどでも見られます。

＊なお、ソメイヨシノなどサクラの表皮に現れる、樹脂状固形物は当然上記とは異なり、揚水が樹皮層の弱い部分から漏れ出て、固化。以降の揚水の流出を防いでいると解釈できます。なお、サクラの樹皮表面でも良く見ると新たな亀裂が見られることがあります。こちらは木部の膨張が原因でしょう。

(注1) サトウカエデなどの樹液採取時になどには、ドリルなどで木部まで穿孔し、ここから樹液を採ります。これは、樹液を形成層の導管から取り出すのではなく、木部に浸透してきた樹液を採取しているのです。導管から木部へ水分が送液される傍証でしょう。



3. カスミザクラの開花

サトザクラを除いてこの付近で最も遅く咲くのはカスミザクラである。

2022年は満開日が4月11日
昨年は開花が4月4日、満開が4月11日との記録が残っています。

今年の開花は4月9日、満開は4月13日でした。例年に比べ葉の展葉が早いように思われました。前述のようにこのサクラは10mを超える樹ですが、今年は一斉開花し満開となりました。上方の枝の写真を添付しておきますので、枝先まで開花していることが分かるかと思います。



4. ヤマザクラ

この附近のマンション前庭や幹線道路沿いの小公園には、ソメイヨシノではなく、圧倒的に「ヤマザクラ」が植えられるようになって来ている。写真は近くのマンションの緑葉・白花種の満開時の画像、4月1日開花、4月7日満開となった。この種も7～8mの樹高があるが今年は枝先まで一斉に開花、展葉が観られました。



*ヤマザクラと言えば街中よりはやはり“山”。4月11日のMNC 観察会下見を兼ねて8日に展葉調査のオジャマムシ、甲山森林公園を歩いてきました。数品種の画像のみ紹介。



晴れていれば、もっとま
しな画像をお送りでき
たのに・・・、生憎、当
日は時々小雨パラツク
天候でした。矢張り、サ
クラは青空の元で観る
姿が良いですね。

例年、3月中頃から4月
中旬まで、様々な品種のヤマザクラが見られるのですが、今年は
少々遅れ気味でした。

本報はこれまでと致します。次報で今年のソメイヨシノの地域別
の開花や満開の期日等まとめてお知らせ致します。

以上